

第28期 第1回北九州市スポーツ推進審議会

- 1 開催日時 令和元年11月26日(火) 14:00～15:30
2 開催場所 北九州市役所本庁舎5階 特別会議室A
3 出席者 委員12名、事務局(北九州市)12名 計24名

- 【審議会委員】 磯貝 浩久(九州産業大学教授)
井上 勝美(北九州市小学校体育連盟)
大曾根 聡子(NHK北九州放送局長)
倉崎 信子(九州栄養福祉大学准教授)
酒井 孝子(福岡県女子体育連盟理事長)
中溝 直樹(北九州市中学校体育連盟会長)
中山 育美(福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会理事)
濱田 美佐(北九州市スポーツ推進委員協議会)
平野 月子(NPO法人北九州市レクリエーション協会理事)
眞鍋 厚毅(北九州市障害者スポーツ協会事務局長)
南 博(北九州市立大学教授)
宮田 義高(公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長)

- 【事務局】 佐藤 保明(市民文化スポーツ局スポーツ担当理事)
天本 克己(市民文化スポーツ局スポーツ部長)
城戸 健一(市民文化スポーツ局スポーツ振興課長)
政徳 克志(市民文化スポーツ局スポーツ施設担当課長)
山根 英明(市民文化スポーツ局マラソン担当課長)
三浦 隆宏(国際スポーツ大会推進室長)
藤本 将志(国際スポーツ大会推進室次長)
ほか、市関係課から5名が出席

- 4 傍聴者 なし

- 5 議事 (1) 議題
①会長・副会長の選出について
②審議会開催予定について
③平成30年度主要事業の報告について
(2) 報告
①北九州マラソン2020について
②ラグビーワールドカップ2019関連事業について
③北九州市民スポーツ実態調査について

6 議事内容

(1) 議題

①会長・副会長の選出について

南委員が会長に推薦され、異議なく承認された。

磯貝委員、井上委員が副会長に推薦され、異議なく承認された。

②審議会開催予定について

事務局より説明を行い、原案どおり承認された。

③平成30年度主要事業の報告について

事務局より説明を行い、下記のとおり質疑応答の上、原案どおり承認された。

委員：極端に人数や金額が増減しているものについて補足説明を求める。

事務局：総合型地域スポーツクラブの会員数がH30年度に大きく減少したが、会員数の精査や、終了した講座などの関係で、数字としては後退した。

委員：ギラヴァンツ北九州のホームゲーム平均入場者数についてはどうか。

事務局：H28年度（3, 224人）は本城陸上競技場がホームスタジアムであったが、H29年度（5, 939人）はミクニワールドスタジアム北九州に移り、スタジアムオープンの効果があった。H30年度（4, 501人）は成績がリーグ最下位となったことによる入場者数低迷と考えている。R1年度は好成績によりJ2昇格が決まり、11月24日のホームゲーム開催時点で5, 907人と回復している。

委員：ウェールズ公開練習ではミクニワールドスタジアム北九州が満員になるなど、北九州市は集客のポテンシャルがあると思う。J2に昇格することによる入場者数の増加を期待している。

事務局：ウェールズの公開練習との大きな違いは、入場料の有無や、ホームゲームが年間17試合あり集客が分散してしまう点がある。

J2昇格後は、福岡、長崎、山口、岡山など、九州や中国地方のチームが増え、アウェイサポーターの増加による集客の伸びを期待している。

委員：部活動に対する満足度が下がっていることについてはどうか。

事務局：H29年度までは、部活動に加入している生徒を対象に調査していたが、H30年度は抽出校の全生徒を対象とし、抽出方法の違いによるものだと考えている。

委員：調査方法を変えた場合などは、今後きちんと補足説明を示すようお願いしたい。

会長：委員の指摘通り、数字につき説明が必要な部分は今後付記を求める。

(2) 報告

①北九州マラソン2020について

北九州マラソン2020大会概要及び申込結果、大会ゲスト等について報告を行った。

委員：パラスポーツが普及しているが、車いすマラソンの実施予定はあるか。

事務局：北九州マラソンを始める際に関係団体と検討したが、コース状況により見送った経緯がある。できるか、できないかは別として、今年度より実施に向けた課題、例えばトイレや給水方法等についての研究を始めた。

委員：ボランティア参加者数が減少しているが、今年度の状況はどうか。

事務局：前年度より、やや少ない状況となっている。初回大会より年配の方のボランティア参加率が高く、回を重ねるごとに少し減っている状況。その分若い人に入っていたきたいが、あまり進んでいない。第7回大会の申込状況でも前回より若干少ないようだが、参加団体の状況は変わっていない。

委員：学生ボランティアは依頼しているのか。

事務局：各大学・高校へ直接依頼したり、高体連を通じて依頼したりしている。

委員：希望者だけがボランティアとして参加しているのか。

事務局：例えば高校の陸上部やボランティアサークルで参加いただいている方が多いようである。

北九州市立大学では地域創生学群など、地元のイベント参加を通じて、地域の盛り上げを勉強するという意味で学生に参加していただいている。

会長：北九州市立大学でも来月300人ほどの学生を対象にボランティアの説明会が行われる。

委員：自治連合会を中心にボランティアをしている地域がある。特に厳しい海岸通りを担当する門司区のコースは体調が悪くなる時期で、当日参加できない等がある。若い人はランナー参加にまわるようだ。自治連合会にもっと若い人を入れて増やしていく必要があると思う。

事務局：門司区は特に自治会を挙げて、女性団体等もボランティアとして応援して下さっている。門司区のコースは海岸線の折り返しもあり、時間も長い。ボランティアで体調を崩すことのないよう、無理のない範囲内でのご協力をお願いしている。

委員：ボランティア目標値はあるか。

事務局：募集は5,000人を目標としている。

委員：少し足りない状況か。

事務局：若干足りていない。

委員：申込者が増えているようだが、どこまで参加できるのか。

事務局：定員を増やしてほしいという要望はよくある。初回大会は定員が1万人だったが、安全に実施した実績を積み重ね、徐々に定員を増やしてきた。警察との協議もあり厳しいが、協議を重ねていきたい。

②ラグビーワールドカップ2019関連事業について

ラグビーウェールズ交流プログラム及び代表キャンプ関係、機運醸成に向けた取組等について報告を行った。

委員：ウェールズ代表受入れは近年稀にみる成功だと考える。

北九州マラソンで培われた「おもてなし」の精神が引き継がれていると思う。特に感謝の全面広告はSNSで称賛され、道徳の教材になると思った。

レガシーとしての検討は何かあるか。市民からもアイデアを募ってはどうか。

事務局：ウェールズキャンプに向けて「スタジアムを満員にする」「歌でおもてなしする」「都市装飾で街を赤く染める」という3つの目標をたてて取り組み、成果につながったと考えている。

ウェールズ首席大臣の北九州市訪問や、ウェールズの文化芸術団体、青少年団体のトップが大会期間中に北九州を訪れ意見交換を行った。

今回の交流を成功事例として、ウェールズと今後も様々な分野で交流を展開していこうと話をしている。

レガシーとして交流を継続していきたいと考えている。

委員：ウェールズの公開練習に興味がなかった人も、新聞の全面広告を知っている。北九州市民として誇らしい。

会長：ウェールズ公開練習についてはNHKのサンデースポーツでも2週に渡って取り上げられ全国的にも関心が高い。北九州市民にとって非常に心に響いた出来事になったのではないか。

委員：夕方のニュースで市の職員が赤のTシャツを着て頑張っている姿を見た。

そこで関心をもち、公開練習当日も素晴らしかった。

スポーツ番組でラグビー情報が出るたびに北九州市が取り上げられ、子ども達がウェールズの歌を歌う姿もSNSで大きな話題になった。これから北九州市を担っていく子ども達にも良い経験になったと思う。

③北九州市民スポーツ実態調査について

北九州市民スポーツ実態調査報告書について説明を行った。

会長：非常に多岐に渡る内容で、面白い結果が含まれていると思う。

質問等あれば、各委員から後日事務局へ問い合わせをしてもらいたい。

④その他

事務局：北九州市スポーツ振興計画は来年度末で計画期間が終了するが、見直しに当たっては、東京オリンピック・パラリンピックの開催状況や、国の次期スポーツ基本計画も、審議会での審議の材料にする必要があると考えてる。今回のアンケート結果を踏まえ、国の動向を見ながら、然るべき時期に審議会へスポーツ振興計画の見直しに関する議論をお願いし、ご意見をいただきたいと考えている。

会長：国の次期計画の方向性が明らかになるまでの間は、選択肢の一つとして本市の現計画の延長も視野に入れておく必要があるかもしれないが、いずれにしても、時期を見て本審議会で議論したい。